



オリジナル設計 西日本支店  
岡山事務所技術課課長代理  
鈴木 淳夫さん

■国内外の知見を考察に活かす

大学院を修了後、配属先は岩手と宮城の営業所でした。そこで計4年間の業務を経験し、その後は現在に至るまで岡山事務所配属され、今年で入社19年目を迎えています。

東北の営業所時代には、岡山では経験することのできない降雪による現場測量の大変さなどを経験し、地域や現場条件の違いが大きいことなどを学べたことは良い経験だったと思っています。

また、ある時、仕事の関係で海外での設計業務を担当したことがあったのですが、「ステンレスなどの高価な材料は工事をした翌日には盗まれる。錆びても良いから鉄を使用し、ボロボロになったら取り替えれば良い」といった状況を体験

したことで、地域によっては日本とは180度違った視点で考える良い経験でした。

■維持管理時代だからこそ水コンの役割

現在の下水道事業は、従前の建設工事を中心とした時代から、建設後の施設をいかにマネジメントしていくかが主な業務になってきています。また、今後の持続ある事業運営のためにも公営企業会計の適用や経営戦略の立案・実施が求められるなど、基盤強化に向けた取り組みがこれまで以上に求められる時代になっていく状況です。

そうした背景から、私が普段から担当している業務についても従来の施設設計はもちろんですが、ストックマネジメント計画の策定業務や公営企業会計の移行支援業務

の割合が増えてきており、本格的な維持管理時代の中でコンサルタントとして下水道事業の持続に向けた提案をしていくことを担っています。

■全体を捉える力を大切に

コンサルタントと聞くと「資料に埋もれながら

図面を引く」というイメージを持たれるかもしれませんが、当社では他のコンサルタントに先駆けて働き方改革を推進しています。特に本社だけでなく各事務所を含めたテレワークも可能

なICT環境を整備しているほか、事務所の配席を固定しないフリーアドレスを導入するなど業務効率化やコミュニケーションのさらなる向上も図っているところです。

さらに、年に1度は当社の菅伸彦社長が各事務所を巡り、アルバイトや社員と直接意見交換する場面を設けていたなど、上下の距離感が近く、何か困ったことがあればすぐに相談できる風通しの良い職場だと感じています。

一方で、設計図面を書きしていた時代からPCやCADというツールの変化によって、設計作業の利便性は大きく向上しましたが、設計の一部分のみを集中して考えるのではなく、対象全体を捉える感覚を大切にするのが今後のコンサルタントには求められるのではないのでしょうか。



# 全体捉え事業持続に貢献